

## 「伊吹おろし」前口上の謎

1916(大正5)年頃に作られた、旧制第八高等学校(名大旧教養部の前身)の代表的な寮歌「伊吹おろし」は、戦後も名大の体育会を中心に歌い継がれてきました。

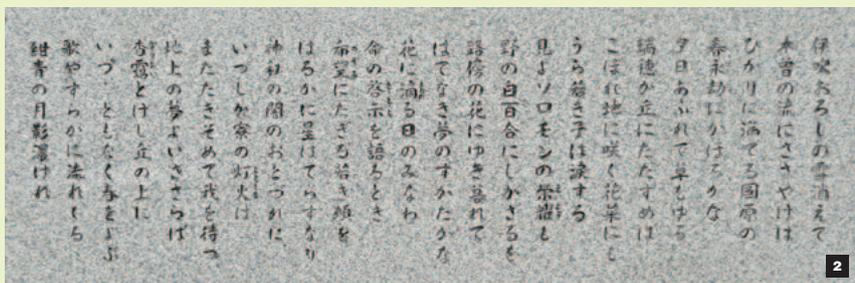
ところで、現在の「伊吹おろし」には、本来の歌詞とは別に「前口上」と呼ばれるものがあります。「富貴名門の子女に恋するを 純情の恋と誰が云ふ」から始まり、最後は「いざ声高らかに歌わむかな 第八高等学校寮歌 伊吹おろし」で終わり、ドイツ語の1(eins)、2(zwei)、3(drei)、のかけ声で本曲に入ります。

ただ、その内容はお世辞にも上品とは言えず、前時代的な文言も含まれており、本曲の歌詞とはかなり異質に感じます。実は、八高時代に前口上はなく、八高廃止後に追加されたものです。体育会機関誌『濃緑』には、1988(昭和63)年から前口上だけが掲載されていた時期がありました。あるいは、これも「伊吹おろし」の本来の歌詞だと思っている卒業生もいるのではないのでしょうか。

この前口上ができた時期や経緯については全く分かっていません。そして、どうやら名大だけのものではないようです。例えば、全国の水産系の大学等で歌われている「水産放浪歌」(「水産逍遙歌」、信州大(旧制松本高等学校)寮歌「春寂寥」、大阪府立大第二学生歌などにも、そっくりの前口上があります。

この前口上の原曲は、戦前に作られたとみられる「蒙古放浪歌」とも言われます。確かに、「水産放浪歌」に至っては、前口上どころか本曲の歌詞も酷似しています。ただ、この「蒙古放浪歌」も、戦後にアレンジのうえ様々な歌手によって歌われており、原曲に前口上があったかどうかは分かっていないようです。

前口上付きの「伊吹おろし」は、八高の寮歌に源流がありながらも、戦後の学生文化の中から形成されてきた、八高時代のそれとは異なった歴史的背景を持つ存在として理解すべきなのかもしれません。



- 1 鶴舞中央図書館前の林の一角にある伊吹おろし歌碑。1958年に八高会(八高の同窓会)によって建立された。
- 2 歌碑に刻まれた歌詞。八高時代の「伊吹おろし」は、その哀調を帯びた曲とロマンチックな歌詞が市民に愛され、男女を問わず若者にも歌われたと言う。
- 3 八高学寮の同室の寮生たち(1935年)。この前口上は、2002年に学外からの要望を受け、『学生便覧』から削除された。『濃緑』でも本来の歌詞だけが掲載されるようになったが、しばらくして学生によって構成される体育会常任委員会であらためて議論され、常任委員会の責任で事情説明とともに歌詞と前口上が両方掲載されるようになった。ただ、公式の場では前口上は歌われていない。

### 名古屋大学基金のご案内

名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



### 新型コロナウイルス感染症対策緊急学生支援基金ご支援のお願い

現在、新型コロナウイルス感染症が世界中で蔓延しており、健康医療は言うに及ばず、私たちの社会活動に広範かつ深刻な影響を及ぼしております。名古屋大学の学生への影響も甚大であり、学ぶ意欲をもちながらも困窮している学生の支援や、遠隔授業等の学習環境整備により、質の高い教育活動を維持するため、ご支援をお願いいたします。

Webでもご寄附を受け付けております。



<https://fundexapp.jp/nagoya-u/entry.php?purposeCode=110000>

ご寄附のお申込み、お問い合わせはDevelopment Office (DO室) まで(電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp) にお問い合わせください。

詳しくはホームページをご覧ください。

アクセスはこちらから

名古屋大学基金

<https://kikin.nagoya-u.ac.jp/>

